

産業界へ広がる日本機械学会の技術者資格

- (社)日本機械工業連合会と(社)日本産業機械工業会から業界初の後援 -

社団法人 日本機械学会

2007年6月から、社団法人日本機械学会(齋藤忍会長)の技術者資格は、(社)日本機械工業連合会(金井務会長)と(社)日本産業機械工業会(相川賢太郎会長)から、業界で初めて後援を受けることになりました。

後援を受けたのは「ISO 機械状態監視診断技術者(振動)」と「計算力学技術者」の2つの資格で、開始から4年のうちに受験者の数はそれぞれ1,500名を越え、合計3,500名を突破しました。受験者は大企業の技術者から中小企業の技術者まで幅広く、ものづくりの第一線で働く技術者に注目の資格として定着しています。

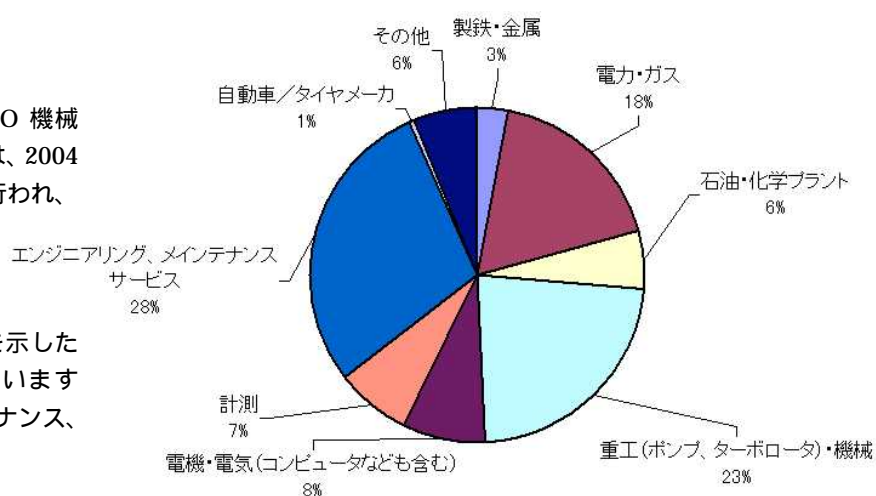
製品の品質を保持するためには、設計から品質管理までの全ての段階において正しい診断・解析結果を得ることが必須であり、そのためには診断・解析を行う人材が高い能力を有することが要求されます。両資格における最大の価値は「人材の品質を保証することにより、診断・解析結果の信頼性を裏付けることが出来る」というものです。この「診断・解析のスペシャリスト」という切り口において、国家資格の「技術士」とは異なる新しい資格となっています。

また「ISO 機械状態監視診断技術者(振動)」資格では、米国 Vibration Institute との相互認証、韓国への認証事業技術の供与を実施するなど、国際的な展開を既に図っており、今後は「計算力学技術者」資格と共に、アジアは元より、広く全世界で役に立つ機械系の技術者資格を実現します。

今回、機械工業・産業機械分野の法人を主たる会員とする両団体が後ろ盾となったことで、技術立国日本の基幹をなす機械技術者の人材育成の更なる活性化が期待されます。

これら二つの資格のうちの一つ「ISO 機械状態監視診断技術者(振動)資格」では、2004年から2006年までに6回の試験が行われ、約1800人が受験に臨みました。

右の図は、受験者の所属産業分野を示したものです。広い分野の注目を集めていますが、特にエンジニアリング・メンテナンス、重工、電力・ガスの伸びが顕著です。



「ISO 機械状態監視診断技術者(振動)資格」受験者の所属産業分野
(2004年~2006年)

本プレスリリースへのお問い合わせ 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館5階
社団法人 日本機械学会 事業運営部門 事業企画グループ 担当: 須藤肇
TEL: 03-5360-3506, FAX: 03-5360-3509 E-mail: sudo@jsme.or.jp

日本機械学会の技術者資格のご紹介（参考資料）

社団法人 日本機械学会

1. 「ISO 機械状態監視診断技術者（振動）」資格について

2004年に開始した「機械状態監視診断技術者（振動）」資格は、センサや機器を用いて工場設備等の機械の振動を測定・解析し、その機械が正常に作動しているかを判断する技術者の能力を保証します。本資格は技術者の技術レベルを国際的に標準化し、認証された技術者による測定・診断結果を世界的に同品質とする目的で制定されたISO18436シリーズに基づいています。ISO9000及び14000シリーズは工場の品質管理・環境管理に関する規格ですが、本資格が準拠するISO18436-2は「人材」のレベルを規定する初の国際規格です。

現在は「振動計測を正しく実施することが出来る」レベルのカテゴリー、「計測結果を評価し、簡単な対策処置を提案することが出来る」レベルのカテゴリー、「機械の状態監視と診断の実施計画を構築することが出来る」レベルのカテゴリーの認証を行っていますが、2007年からは「全ての機械の振動計測と解析に精通している」最上位レベルの資格「カテゴリー」の認証も開始します。

2. 「計算力学技術者」資格について

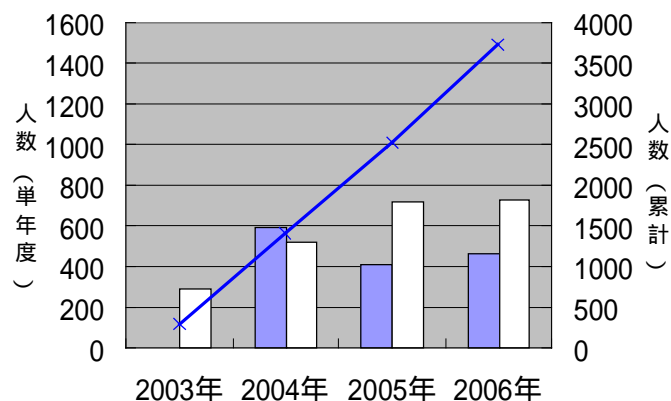
2003年に開始した「計算力学技術者」資格は、これから設計しようとする製品をコンピュータ上に仮想構築し、変形・振動・熱伝導といった力学的挙動を解析することにより、その製品が適正に設計されているかを判断する技術者の能力を保証します。近年普及しているFEMソフトの結果を正確に判定して設計ミスによる製品事故を防ぎ、安全な製品を開発するという大切な役割を担っています。

現在、「固体力学分野（有限要素法）」と「熱流体力学分野」の試験を実施しており、今後は新たに「振動・制御分野」にも進出する予定です。また現在、「解析を適切に行うことが出来る」レベルの初級、「線形解析を行い、結果を自身で検証することが出来る」レベルの2級、「各種の非線形解析を行い、結果を自身で検証することが出来る」レベルの1級（1級は固体力学分野のみ）の認証を行っていますが、今後は「複数の計算力学手法をマスターし、ものづくりプロセスにおいて解析から評価までの一連のプロジェクトを主導することが出来る」最上位レベルの資格「アナリスト」の認証も開始する予定です。

3. 資格取得によるメリット

これらの資格を取得することにより、技術者は自身の技術レベルやキャリアの国際的裏づけとすることが出来ます。企業にとっても同様で、日本国だけでなく海外に向けた自社の業務品質保証となり、国際的なビジネスチャンスが拡大します。同時に、技術者の採用や業務のアウトソーシングの際に、人材のレベルを測る尺度として活用することができ、企業イメージを致命的に損なう製品事故等のリスク軽減に繋がります。

受験者数の推移



■ 受験者数(機械状態監視) □ 受験者数(計算力学) —x— 累計